

西谷会計

平成28年11月号



【所長のDVDコレクションより～ガリバーインターナショナル～】

本日本日紹介するのは、ガリバーインターナショナルの羽鳥兼一氏です。ガリバーは中古車の買取・販売会社として1994年に羽鳥氏が創業、1999年には国内500店舗を達成し、創業から6年で東証2部へ、8年で東証1部へ上場した驚異の成長を誇る会社です。羽鳥氏は現在会長に就任しています。

羽鳥氏の実家は、もともと再生タイヤと板金を扱っていたそうです。羽鳥氏は下請けだと全然利益が出ないということで、直接お客様から仕事をもらう道を模索し始めました。考えたのは、朝早くから道路をパトロールすること。当時は道幅も狭く道路から「落ちている」車が一日に3台から5台はあったそうです。このような事故車をクレーンで引き上げる仕事を始めたところ、これがヒットしたそうです。

後に中古車販売業に転身した羽鳥氏ですが、中古車販売というのは「うさんくさくみられる」ことがとても嫌だったそうです。同じ車を扱っていても、BMWやベンツのディーラーの社長は尊敬されて、中古車販売の社長はうさんくさく見られるのだそうです。中古車といっても、走行距離数が多くてもオーナーが大事に乗ってきた車もあれば、ガレージに保管されていていつもピカピカに手入れされていた車もあったりと、素晴らしい商品がたくさんあります。ところが当時業界では、事故歴を隠したり、メーターを操作したりということが蔓延していました。

羽鳥氏は、なんとかこの業界を変えたいと思うようになります。その結果、業界の一番悪いところは価格が不透明なことだという結論になりました。これを是正するためには、田舎で中古車屋をやっているでもダメ、中古車が発生する発生元を抑えよう、お客様が下取りに出す前に適正価格でダイレクトに買い取る必要があります、そのためには全国で500店舗は必要だと考えました。一生かけて500店舗では意味がない、期限は5年間。1994年に従業員と2人で、1999年の12月31日までに500店舗達成するという目標を紙に書いて、2人で毎日唱和したそうです。その夢は見事に実現することになりました

【所長の本棚より～地方銀行消滅～】

2014年に増田寛也さんが「地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～」を出版して以来、ダウンサイジング社会に関する書籍はずいぶんと多くなったような気がします。今回紹介する書籍もダウンサイジング社会を扱ったのもので、「地方銀行消滅」です。著者は津田倫男さん、都市銀行から外資系銀行へと22年間金融業界に携わった方です。書籍やテレビ出演もあるのでご存知の方も多いと思います。

現在、地方銀行と第二地方銀行を合わせてその数は105行、それに、預金量が概ね一兆円以上の大手信用金庫をを合わせると140ほどの金融機関が日本国内に存在します。それがここ5年くらいをめぐりに20～30に再編統合されるであろうという衝撃的なお話です。著者はこの状況を戦国時代に例えています。人口の減少による経済活動の縮小や貸付先の減少など融資環境の悪化は銀行の収益源を著しく圧迫します。加えて、マイナス金利による運用難も銀行の経営にマイナスの影響を与えます。著者は、統合、再編により規模を拡大してマーケットに対する影響力を保持し、業務効率化により収益力を維持しようとする動きが今後更に加速するとしています。

実際、最近の地方銀行を巡る動きは非常にあわただしくなっています。2015年10月に鹿児島銀行と熊本の肥後銀行が経営統合、2016年2月には長崎の十八銀行がふくおかFG(福岡銀行、第二地銀の熊本銀行、長崎の親和銀行)と統合すると発表、2016年4月には横浜銀行と第二地銀の東日本銀行が経営統合、2016年10月には茨城県の常陽銀行と栃木県の足利ホールディングスが経営統合といった具合です。

この本では、全国を6ブロックに分けて金融機関の再編予想をしています。北海道・東北は一つのくくりで広域と近隣の統合で勢力図が大きく変わるそうです。著者の予想によれば、北海道一位の北洋銀行と北海道二位の北海道銀行が核となって東北を攻め、七十七銀行が守る構図なのだとか。なかなか面白い内容です。



【薬剤師 夏子の部屋】

急に寒くなったり、またぼかぼかしたり。だんだんと冬に近づいている気がします。そろそろとつくりを着ようと思っている夏子です、こんにちは。

さて、今、板状ブームが来ています。私だけの板状土偶ブームがあ・つ・い・です。この熱さが何処からきたかと申しますと、野辺地町の「板状立脚土偶」からきたのであります。先日、特に何があるかも知らずにドライブがてらただついて行った野辺地の「歴史民俗資料館」で出会ったのでした。出し惜しみされることなく、展示室に入るとすぐ正面のガラスケースのなかにいらっしゃいました。

パッと見は不格好です。でも、何と二本の足で立っているのです。逆三角形の胴体が大きすぎる為か、めちゃ短くて太い足を踏ん張り立っています。大きいつま先とかかかとで踏ん張っています。そして、板状といえども前方に傾いている首があり頭部と顔が立体的についています。

は一ととぼけたお顔です！非常にあごのとがった細面の顔にと一つも小さい穴のような目と鼻と口がついています。踏ん張った足とでかい胴、それなのにとぼけた様なお顔。まとめてとても可愛いです！そして何かをしゃべりださそうです。後姿も見る事が出来るのですが、頭にターバンのようなものが載っています。そんなおばちゃん、現代のご近所さんにも居そうです(女性なのでしょうか？)。

「は一、可愛い～。」と土偶の周りをグルグルと回り前横後ろと観察しました。私の知っている板状土偶はただ平たかったと思うのですが、野辺地のお方は頭から足まで肉厚で立体的です。これでも板状土偶なのでしょうか？少し疑問に思いました。

今までは色々な土偶を見ても、しゃこちゃんを超えるものは無いのでは？と思っていましたが、土偶の世界は広がった。そして深かった(後日、弘前大学すごい土偶達とであいました、フフ……)。

野辺地の歴史民族資料館には他にも重要文化財があります。「赤漆塗木鉢」です。少し前に話題になったことのある国の重文です。すっかりきれいに修復されて陳列されていました(きれいになり過ぎてパンフの写真とは佇まいが若干違うような…?)



西谷会計事務所

〒030-0821 青森市勝田2-6-18

<http://www.248nishiya.com>

TEL 017-774-2315

E-mail nishiya-kaikei-jimusyo

@tkcnf.or.jp